

## シリーズ! 活躍する2022年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その5

たけだ ひろき  
武田 洋樹KDDI株式会社 技術企画本部 標準化戦略室 標準開発グループ  
エキスパート  
ho-takeda@kddi.com  
https://www.kddi.com/

2013年より3GPP RAN標準化に参画。日本で使用可能な周波数を用いたLTEキャリアアグリゲーション仕様化の提案や、2020年商用開始に向けた5G早期標準化完了の提案、基地局無線バックホールを実現する5G技術IAB (Integrated Access & Backhaul) では共同ラポータを務めるなど、LTE及び5Gの標準仕様策定に貢献。

## 3GPP RANプレナリ、RAN2、RAN3の標準化活動

この度は、ITU協会賞奨励賞を頂き誠にありがとうございました。この場をお借りして、これまで、ご指導、サポートいただきました関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。

私は、2013年から現在に至るまで、約9年にわたり、3GPP RANプレナリ及びRAN2、RAN3の標準化活動に参加しております。RANプレナリは、無線通信に関わる標準技術を策定するRAN1~5のWGを統括する会議体であり、各WGでの標準仕様策定のスコープやスケジュール、WGで策定された標準仕様の承認を行います。RAN2は、無線基地局/端末間の無線プロトコル、RAN3は、無線基地局のアーキテクチャーと関連するインタフェースの技術標準仕様を策定しています。

RANプレナリでは、日本国内で使用可能な周波数を用いたLTEキャリアアグリゲーション仕様化のワークアイテムの提案や、2020年商用サービス開始に向けた5G NSA方式(既存のLTEネットワークを利用し5Gを提供する技術)の早期標準化の提案などを行いました。5Gの早期標準化の提案では、同じ早期標準化を希望する国内外の企業と連携し、早期標準化スケジュールの合意に至ることができました。

RAN2 / 3では、寄与文書入力や、様々な国内外の企業

の技術者との議論を通して、ドローン向けLTEの機能拡張や、5G RANスライス、運用自動化や通信エリア改善を実現するSON (Self Organizing Networks)/MDT (Minimization of Drive Tests) など複数の技術分野の技術の標準策定に関わりました。また、基地局無線バックホールを実現する5G技術IABでのスタディアアイテムでは、海外オペレータ/ベンダの担当者とともに、共同ラポータを務めました。

私自身、標準化活動を開始した頃は、寄与文書のプレゼンや、英語での質疑応答も満足にできない状態でしたが、社内のみならず、社外の方々にも、温かいアドバイスやサポートをいただき、スタディアアイテムの議論を取りまとめる共同ラポータを務めるまでに、成長することができました。それぞれの標準化議論では、他者と意見が対立する難しい状況となることも少なからずありましたが、他者の考えも尊重し、共通の目的に向かって議論を進めていくことの重要性を、身をもって体験できたことも貴重な財産となっています。また、LTEや5Gは、世界中の人々に広く使われる技術であり、その技術標準の策定に貢献できましたことも誇りに思っております。

今後は、私が、新たに標準化活動を開始される方々をサポートする立場にもなり、引き続き通信業界の発展に貢献できるよう、より一層の努力を重ねてまいりたいと思います。